

なごやの学童保育

市連協ニュース No.10

2016年度・2月7日発行
 名古屋市学童保育連絡協議会
 TEL (052) - 872 - 1972
 FAX (052) - 308 - 3324
 E-Mail: info@gakudou.org

HP <http://gakudou.kodomo.co/> Facebook <https://www.facebook.com/NagoyaNoGakudouHoiku>

より良い学童保育運営へ

新制度の学習会を開催

愛知学童保育連絡協議会(県連協)は1月15日に名古屋市中区のイーブルなごやで、国が進める学童保育施策について「新制度学習会」を開きました。厚生労働省から担当係長を講師に招き、学童保育の歴史や現状、子ども・子育て支援新制度の概要、2017年度の関連予算要求などの説明を受けました。県内の学童保育関係122人が参加。衆議院議員・県会議員・名古屋市会議員や県の学童保育担当者も同席しました。



講演に先立ち、参加議員からは「いろんな意見交換をして(施策を)良い方向にしたい。子どもを社会で育てていくように」(近藤昭一衆議院議員・民進党副代表)、「(学童保育の)学習のプロジェクトチームを作った。名古屋市議会になら、県でも議連を作りたいと動いている。しっかり学習したい」(富田昭雄県会議員・民進党)などのあいさつがありました。

説明の骨子は以下の通りです。

【現状と基本方針】2015年5月時点で全国に2万2608カ所の学童保育所があり、102万4635人の登録児童と1万6941人の待機児童がいる。国は、子ども・子育て支援新制度を導入し、放課後児童クラブ(学童保育所)では運営指針を示すとともに、2019年度末までに計約122万人分の受け皿を作る目標を掲げるなど、支援の量・質両面を拡充させている。

【2017年度予算要求】(※補助表示は年額) 予算は

725.3億円(前期比約150.5億円増)を要求。約122万人分の受け皿整備を1年前倒しし18年度までに実施する。17年度は117.8万人(同約3.9万人増)に。施設整備費の国庫補助率かさ上げ(1/3→2/3)を継続。

◎ 補助基準額(児童数36-45人の場合)は430.6万円(同56.2万円)に増額。

◎ 放課後児童支援員(指導員)のキャリアアップ処遇改善事業(仮称)を新設。(資格者に+12.4万円、経験5年以上に+24.8万円、同10年以上の“事業所長立場”に+37.2万円)

◎ 長期休暇中のみ児童の受け入れ増について、「支援単位」(指導員常時2人体制)を増やす場合に日額1.7万円を補助する制度を新設。

◎ 賃借施設などへの防災対策補助を拡充。(詳細略)

◎ しょうがい児受け入れへの追加補助を拡充し、従来の「5人以上」から「3人以上」に。補助額は179.6万円(前期比4.8万円増)。

◎ 指導員の「処遇改善」に上限158.1万円(前期比4万円増)。同「常勤配置」に293.2万円(同2.8万円増)。条件を「該当全ての業務の主担当でなくてもよい」と緩和。

以上

講演後は、会場から質問が相次ぎました。また「指導員の常時2人配置を、突発的な勤務不可の場合も守るのは民営では難しい」「2020年度からは有資格者の適正配置が必須となるが、処遇改善等の補助は自治体の裁量に任されている。自治体間に補助制度の格差があり、どんどん広がる。一本化はできないのか」「指導員が不足している」「来年度待機児童が出そう。保護者の責任で新たに学童保育所を立ち上げないといけない(のはおかしい)」などの意見もありました。

国の予算要求は、無条件に名古屋市の補助制度になる訳ではありません。愛知県や名古屋市の動向にも注目し、2017年度からの補助制度の変更をしっかりと理解し、学童保育運営の充実に生かしていきましょう。

相互理解が大切

指導員確保に向けて学習会

名古屋市学童保育連絡協議会(市連協)は1月24日、「指導員確保に向けて 指導員の募集 準備し考えるべきこと」と題し、学習会を開きました。

指導員採用活動をされる多くの人は、“採用される”側の経験はあっても、“採用する”側の経験はほとんどないと思います。しかし、学童保育所における指導員確保の必要性は待ったなしの情勢です。学童にとって必要な指導員確保のためには何を準備すればよいか、悩みや困っていることを出し合うための場となればと、学習会として取り上げるようになりました。

講師は、仕事での経験を活かして、自分の学童保育所で指導員採用活動に携わってきた池田徹弘さんです。平日夜の開催ではありましたが、30人を超える参加がありました。名古屋市外からの参加もあり、昨今の学童保育情勢を踏まえ、非常に関心の高い内容だと感じました。

学習会で池田さんが一貫して説いたのは、「採用活動には相互理解が必要である」ということです。「採用活動は“婚活”と同じで、決して一方通行の活動ではなく、お互い相手があってこそその活動である」という説明が心に残りました。学童保育所が応募者から指導員を選ぶ(採用する)のではなく、むしろ学童保育所が応募者から選ばれる(採用されたいと思ってもらう)という意識をもって活動することが、成功につながるということです。

指導員という人材を確保するための主な方法は、「採用活動」で新しく指導員を雇用すること、雇用した指導員が辞めない「定着活動」を行うことの二つがあります。この採用と定着を実践するためには、採用活動段階からの相互理解が不可欠で、そのためには、応募者と同様に学童も自己PRをすることが必要となります。応募者から「この学童から採用されたい、ここで仕事をしたい」と選んでもらえるようなPRのために、「まず学童保育所の価値観(理念)が確立されていない場合は、学童内で話し合う試みをされるとよいでしょう」とのことでした。

また、採用活動においては求める人材によって募集媒体を選び、自分たちが求める人材が応募したいと思

える「目をひく」「心ひかれる」キャッチコピーを考えることで、マッチングの確率がより上がります。採用のミスマッチを防ぐことも、お互いにとって大事なことです。

指導員採用活動は、学童保育所が指導員を選ぶ活動と考えていましたが、池田さんのお話を聞き、「指導員確保に向けて、まずは自分の学童保育所の課題や足りない部分を振り返り、解決しなければ」と改めて感じる機会ともなりました。

講義に加え、ワークグループディスカッションや質疑応答を通じて、素朴な疑問、ちょっとした悩みにも意見交換がされ、講師や経験者からアドバイスを受け、マル秘ポイントも伝授してもらえました。

次回開催時には是非、採用活動に携わっているより多くの保護者や学童関係者にも来てほしいと思える充実した学習会となりました。

上映会しませんか？

えがおプロが「なごやの遊び」DVD化

東日本大震災で被災した学童保育を支援する「えがおプロジェクト」は、福島県の学童保育所の子どもたちとの交流活動の一環として、愛知県の学童保育所の子どもたちが日頃親しんでいる遊びを紹介するDVD「なごやの遊び」を製作しました。

愛知県内の複数の学童保育所の子どもたちも撮影に協力しました。コマやヤットコはもちろん、トランプを使ってやる推理ゲームなど、個々の学童保育所固有の遊びも披露。DVDは実際にえがおプロジェクトのメンバーが福島県に持参し、DVDの上映会を開くとともに、そこに出てくる遊びを現地の子どもたちと楽しみ、交流を深めてきました。

このDVDをみんなで鑑賞しませんか。プロジェクトメンバーが区連協や各父母会に参上し、上映会を開きます。気軽にお声がけください。

指導員のための学習会 **参加費無料**

「心もからだも健康に過ごすために

学童保育の職場づくりにについて考える」

3月7日(火) 9:30~11:30 労働会館本館第3会議室
(金山駅からイオン方面に徒歩10分)

健康調査報告と講演、笑いヨガ教室もあります。
講師=産業医・太田充彦さん(NPO法人けんこうをささえる会)

主催=NPO法人けんこうを支える会 ☎052-872-1972